

“Face”を後項とする句複合語とその類似形式の研究

細谷諒太(慶應義塾大学大学院生)

1. はじめに

本研究では英語の名詞 face を後項とする句複合語 (phrasal compound) およびそれと類似した形式を持つ表現をコーパス等から収集し分析することを通して、英語における名詞の前置修飾の多様性に富んだ実態を明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究

句複合語 (phrasal compound) とは句を内部に含んでいる複合語のことであり、いくつかの言語で存在が確認されている。英語の句複合語は [X Y] という形式であり、前項 X にはハイフンや引用符が現れることが非常に多く、後項 Y は名詞か形容詞である (Günther et al., 2020)。全体としては一語でありながらも内部に語より大きな言語単位である句を包摂しているという特異性により、とりわけ形態的緊密性 (lexical integrity) の観点から一部の形態論・統語論研究者たちの関心を集めてきた (Trips & Kornfilt, 2017)。また、句複合語の中でも特に、前項を仮想的な発話と見做せるものは fictive interaction compound (FIC) や direct speech compound (Pascual, 2014)、あるいは文包摂名詞 (泉, 2024) などと呼ばれ、臨場感の演出など様々な機能があることが指摘されてきた。

句複合語は定義により (句ではなく) 語であるが、一般に与えられた言語表現が (複合) 語であるか否かの判定はいつでも明確にできるとは限らない。そのため句複合語であるかどうか分からない表現が多く存在する。また、FI と類似表現の境界は必ずしも明確ではないため (Pascual & Sandler, 2016)、与えられた言語表現が FIC であるか否かの判定もいつでも明確にできるとは限らない。そのため句複合語であるとは言えそうだが FIC ではなさそうな表現も多く存在する。これらの「句複合語や FIC と類似してはいるものの、ステータスが判然としない表現」はスポットライトを浴びることがこれまでほとんどなかったが、それらについて理解を深めることは、句複合という現象自体や、それが言語理論に与える示唆について論じて行く際に有益と思われる。

3. データ収集方法

本研究で使用する「face を後項とする句複合語、およびその類似形式」の実例は主に enTenTen15 というコーパスから収集した。これは 2015 年のある特定の時期に存在していたウェブ上の英語を約 130 億語収録した大規模コーパスである。また、補助的な資料として筆者が米国の映画やテレビドラマから発見した実例を使用した。

コーパスからの具体的な実例収集方法は次の通りである。まず、Sketch Engine で enTenTen15 を選択し、コンコーダンスの CQL を使用して “X” face または “X” faces という形式で、かつ X に 2 語以上 (すなわち、スペースが 1 箇所以上) 含まれているものを検索した。検索結果から重複を除くと 1729 件のデータが得られた。これらを全て確認し、「face が動詞として用いられている」、「X が引用符の外側にある (すなわち、X の直前の引用符がその前の語句を、X の直後の引用符が face(s) 以下の語句を囲っている)」等の理由で不適格なものを排除し、229 件の「句複合語および類似表現」を得た。また、「X face または X faces という形式で、X が http という文字列を含まず、かつ X の両端以外の場所にハイフンが 3 つ以上現れ、それらのハイフンのどの 2 つも隣接していないもの」を検索して 176 件のデータが得られた。これらを全て確認し、「face が動詞として用いられている」、「後項が face ではなく face から始まる複合語である」等の理由で不適格なものを排除し、133 件の「句複合語および類似表現」を得た。

4. 分析と議論

第 3 節の収集方法により得られた、前項に引用符が現れるタイプの「句複合語および類似表現」229 件と、前項にハイフンが現れるタイプの「句複合語および類似表現」133 件を、意味が特殊化されている度合いを基に、「意味の特殊化の度合いが小さいもの」、「意味の特殊化の度合いが中程度のもの」、「意味の特殊化の度合いが大きいもの」の 3 つのグループに分類

した。以下では各グループの実例を観察し、それらの諸特徴を分析する。なお、本研究で注目する「face を後項とする句複合語、およびその類似形式」の部分への強調と一部の省略(...)を除き、原文に改変は行っていない。また、一部の例文には理解の助けとなるよう文脈情報を付与してある。

4.1 意味の特殊化の度合いが小さいもの

このグループの実例は意味の特殊化の度合いが小さく、複合語ではなく句である、あるいは複合語というよりは句に近いと考えられる。また、文法的観点から見ても(あまり)逸脱的ではない。

4.1.1 前項に引用符が現れるタイプ

前項に引用符が現れるタイプの「句複合語および類似表現」229 件の中でこれに該当するものは無かったが、不適格として排除したものの中には以下の(1)のような実例があった。

(1) [文脈情報] 事件についてのレポートから

Ilona Sheach, 21, thought her baby was already dead when she saw her **"pasty, greyish-colour" face** on the night she was taken to hospital, the High Court in Aberdeen heard yesterday.

(1)ではpastyやgreyish-colourが引用符で囲われており、これらの表現をSheach氏が事件当時の娘の様子を証言する際に使用したであろうことが示唆されている。しかし、Sheach氏の言葉を引用しているという情報が付け足されている点を除けば太字の部分はごくありふれた形容詞による名詞の修飾表現である。

4.1.2 前項にハイフンが現れるタイプ

このタイプは以下のように年齢に関わる表現がほとんどである。

(2) (...) A tiny person with an unassuming **13-year-old-boy face** whose entire body was about the length of his partner's legs.

4.2 意味の特殊化の度合いが中程度のもの

このグループの実例は、4.1節の実例よりもやや意味の特殊化の度合いが高く、句と複合語の区別がつきにくい。前項と後項名詞faceとの間の意味的・統語的關係を考え、少しの語句を補うことで解釈ができる。また、文法的にも4.1節の実例に比べて逸脱している度合いが大きい。

4.2.1 前項に引用符が現れるタイプ

(3) A sly, mischievous but friendly look that lit up her cute **"girl next door of your dreams" face** (...)

(4) The Ohio GOP has not learned a thing... still promoting typical old fashioned politicians. No true new **"for the people" faces**.

(3)は“face (of the) girl next door of your dreams”, (4)は“faces (who work) for the people”のように、前置詞や関係代名詞、動詞等を少し補うことで解釈ができる。

4.2.2 前項にハイフンが現れるタイプ

(5) I remember that I strongly felt that I didn't want to be a mere statistic in this world, swept away in the tide of **soon-to-be-forgotten faces** that in the end amounted to nothing very much.

(6) [文脈情報] 筆者がカウンターでお試して購入を決めた化粧品について述べている。

Don't know that I'd wear it every day because it feels rather heavy on my **used-to-mineral-powder face**.

(7) [文脈情報] 筆者が妹たちに綺麗な肌の秘密を聞いている。

(...) they shared with me the secret of their smooth, hairless, **just-starting-to-sag faces** – a little \$14 “trimming wand.”

(5)では“faces (are) soon to be forgotten”, (6)では“face (is) used to mineral powder”, (7)では“faces (are) just starting to sag”のように「faceを主語としてbe動詞を補えば前項と結びつく」という関係が成立しており、この関係を基に意味を解釈することができる。

4.3 意味の特殊化の度合いが大きいもの

このグループの実例は意味の特殊化の度合いが大きく、複合語であると言えそうなものが多い。前項と後項名詞faceとの意味的結び付きを、百科事典的知識等の助けを借りて補うことで意味の解釈が可能となる。文法的にはかなりの逸脱が感じられ、使用者のクリエイティビティや遊び心が感じ取れる例も少なくない。

4.3.1 FIC

4.3.1.1 前項に引用符が現れるタイプ

前項に引用符が現れるタイプの「句複合語および類似表現」229 件の中のほとんどがこのグループに属する。

- (8) I am a hardened traveler. I have perfected my stony **"Don't even think about talking to me" face** (distant stare, furrowed brow), and if you do dare to think about it, you'll be met with a curt and final "Fine, thanks" and a quick dive for my headphones or cellphone.
- (9) Bret looked at the crowd giving them a **"you make me sick" face** that led to them booing him out of the building.
- (10) My **"I can finally listen to Pandora" face!**
- (10) のように、ブログで写真を載せる際の導入として使用される例も多い。

4.3.1.2 前項にハイフンが現れるタイプ

前項にハイフンが現れるタイプの「句複合語および類似表現」の中にも FIC はあるが、前項に引用符が現れる場合よりも割合は少ない。

- (11) I shot Matthew an **I-told-you-so face**.
- (12) [文脈情報] ネット上のサッカーファンどうしのやり取りの中で、ある人が Gallo 選手のオフENSE能力の未熟さに言及している。
- But again, attacking is a thought process to him, and in a league where forwards and guard are quicksilver, silky smooth explosive freaks, Gallo is just going to continue making that **oh-so-stunned-what-just-happened-please-call-a-foul-hope-nobody-noticed face** many, many more times.
- (12) では、ピッチ上で Gallo 選手が(おそらく相手ディフェンダーに転ばされたふりをしてファウルをアピールするなどの)プレイをしている際に心の中でいかにも発していそうな仮想的な言葉が前置修飾要素として複数現れている。

4.3.2 FIC ではないもの

4.3.2.1 前項に引用符が現れるタイプ

前項に引用符が現れるタイプの「句複合語および類似表現」229 件の中で、FIC でないものは少数存在する。

- (13) His little **"kid in a candy store" face** that drove me wild

4.3.2.2 前項にハイフンが現れるタイプ

前項にハイフンが現れるタイプの「句複合語および類似表現」の特徴は、このグループに属する実例が多様であることである。

- (14) [文脈情報] イベントに登壇するストーリーテラーの Donald 氏の紹介記事より。
- When listening to Donald's stories I clearly see the antics of Donald convincing his little brother to try walking on the "hard shell" of cow pies; the **trying-hard-to-keep-from-smiling face** of his father as he assigns proper punishment to Donald for cutting his brother's curly locks; (...)
- (15) [文脈情報] ホテルについてのレビュー
- The rooms are fresh, modern and comfortable, the views from the roof terrace delightful, and it was perfect to be able to wander straight down the stairs into the spa, with only spa guests or spa staff to see your **just-got-out-of-bed face**.
- (16) [文脈情報] 育児ブログの記事と思われる。筆者は息子 Ger のコメディアンのような振る舞いについて描写している。
- Ger leaned back into his highchair, made a very expressive dissatisfied noise, then contorted his face into a very pouty, **bottom-lip-sticking-out-and-nose-wrinkled-up face**.
- (17) [文脈情報] 筆者がテレビシリーズ(おそらく The 100)を視聴した感想を、毒舌を交えながら綴っている。
- After Murphy and his **Robert Pattinson-smooshed-up-against-glass face** leads them to Camp Grounder, the small group — which includes the three mentioned as well as those two blond siblings who never talk — takes one of the Grounders prisoner and drags him back to the bunker for a chat.
- (18) [文脈情報] ハイキングで、雪が積もっているため準備不足の者は引き返せという指示を聞いた後の Nick について。
- I turn to Nick, who has an insane grin on his **kid-amazed-by-the-idea-of-snow face**, look down at his canvas pants and upgraded sneakers ... and to my very concerned "Are you really sure about THAT?" he responds with an even more firm and excited "Oh Yeah Baby!"

(19) [文脈情報] 顔認識技術に関する論文から

As shown in Figure 1, the mean Gabor-jet similarity between **same-identity-different-viewpoint faces** is about 0.9, while in our previous study (Xu et al., 2009) it is about 0.8 (as a result of a 20° rotation in depth).

(14)の太字部分は, “face (that people wear when they are) trying hard to keep from smiling” の括弧内を省略して“trying”以下を“face”の直前に置いたものと考えれば解釈できるが, 補完する必要のある要素が4.2節の実例より多い。

(15)の太字部分は, “face (that you wear when you) just got out of bed”と補完して解釈できる。ただし, この表現はかなり慣習化しているため, just-got-out-of-bed が「寝起きの」という意味の形容詞として使われていると言っても良いかもしれない。(16)のように, その顔の様子を作り上げる唇や鼻の様子に具体的に言及し, どのような顔であるかを描写している例もあるが数は少ない。(17), (18)にはたとえが関係しており, 前項はどちらも「名詞+過去分詞から始まるまとまり」という形式である。(19)には臨時一語的な性質が感じられる。

5. 結論

本研究では英語の名詞 face を後項とする句複合語およびそれと類似した形式を持つ表現をコーパス等から収集し分析した。分析の結果, 英語における名詞の前置修飾表現の多様性に富んだ実態が明らかとなった。前項に引用符やハイフンが現れる「句複合語および類似表現」の中には, 典型的な句複合語やFICだけでなく, 句であるか語であるかの判定が難しいもの, FIC であるかどうかの判定が難しいもの, その他様々な形式・機能を持った表現が存在している。引用符やハイフンなどの形式的特徴を基にデータを収集する際にはこれらの類似形式がまとまって得られるが, それらを一律に「句複合語」や「文包摂名詞」と見なすことは適切ではない。異なる創造の過程を経て生み出された異なる機能を持つ形式が, 「ハイフンや引用符を含む部分に名詞が後続している」という共通の特徴を持っていることで, あたかも同じ仲間であるかのように見なされているだけである。

謝辞 本研究はJST SPRING(Grant Number JPMJSP2123)の支援を受けている。

参考文献

- Günther, C. (2019). A difficult to explain phenomenon: increasing complexity in the prenominal position. *English Language and Linguistics*, 23(3), 645-670.
- Günther, C., Kotowski, S., & Plag, I. (2020). Phrasal compounds can have adjectival heads: evidence from English. *English Language and Linguistics*, 24(1), 75-95.
- Hosoya, R. (2024). Relations between fictive interaction elements and the noun “face.” *Colloquia*, 45.
- 泉大輔 (2024). 現代日本語の逸脱的な造語法「文の包摂」の研究。ひつじ書房。
- Trips, C., & Kornfilt, J. (Eds.). (2017). *Further investigations into the nature of phrasal compounding*. Language Science Press.
- Pascual, E. (2014). *Fictive Interaction: The conversation frame in thought, language, and discourse*. John Benjamins Publishing Company.
- Pascual, E., & Sandler, S. (2016). Fictive interaction and the conversation frame: An overview. In E. Pascual & S. Sandler (Eds.), *The conversation frame: Forms and functions of fictive interaction* (pp. 3-22). John Benjamins Publishing Company.